

## 木彫による造形研究 2012

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*  
(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」「そのものが創り出す空間」を使い構成している。



岩井義尚木彫展 2011-2012 2012.9.08 ~ 9.17  
名古屋芸術大学アールスペース T.A.G.IZUTO (名古屋市)



第 35 回 中部二元会展 2012 2013.3.05 ~ 3.10  
愛知県美術館ギャラリー8FA,B室 (名古屋市)

テーマ：「動き」「流れ」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、木材の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出したモノの複数を組合わせて表現した立体とレリーフがある。平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物の構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングとクロッキーに彩色する平面表現の研究をする。



Form 1207 「遊No.8」

樟 (クス)

H110 × W45 × D21

「遊」シリーズ、2回目の4人の子供の繋がり、動きの構成によるアイデアを基に、丸太をチェーンソーで半分に縦割りした厚さ 21 cm のクス材を彫り、「躍動」をイメージした表現をした。



彫り進めるために、アイディアスケッチを基に、何度も確認の為に材に直接ドローイングする。





Form 1301  
 樺（ケヤキ）+樟（クス）  
 H150 × W300 × D120

この作品の材料は、大学の東から西キャンパスに植え替えた後、立ち枯れをし、伐採されたケヤキの木と、数年外気・風雨にさらされ経年の美しさが出てきた過去に作品だったクス材を使用している。

チェーンソーにより、丸太から面出しを行い角材にしたものを、バランスを考えながら組み、新旧の木のコントラストを生かし、「広がり」を表現した。



何度も直接材料で立体的に組み方を考える。





Form 1211

樺 (ケヤキ)  
H72 × W39 × D15

Form 1211 は、人体の要素を分析し、厚さ 15cm の直方体のケヤキの塊に、その要素を組み合わせたアイディアスケッチを基に彫り出した。ある角度からは、二人にも見える。



制作中の Form 1211 と Form 1206



Form 1206

樟 (クス) + 樺 (ケヤキ)  
H48 × W30 × D28

この形は、やはりモチーフを人体として、足を抱え込んだポーズを角形体と球体・楕円球体で表現し、不安定な立たせ方で変化を持たせた作品である。



Form 1205

樺 (ケヤキ)  
H21 × W63 × D43

同様の形の塊を半積み重ねにし、一端を少し離すことにより、「接点」を意識した。





**Form 1212**  
 樺 (ケヤキ)  
 H73 × W36 × D3

Form 1212 は、アイディアスケッチを基に、左の画像の彫り始めでは縦長長方形であったが、この作品の出来上がりを想定し、ポーズの面白さを出すため、コーナー部分を丸くした。それに加え、木の白木部分により髪の毛に変化を齎す事が出来た。



**Form 1210** 樺 (ケヤキ) + 雑木 H30.5 × W72 × D6

Form 1208・1209・1210 の3点は、板、四角材、球体による、木のコラージュにより、「壁面を装う」を目的に制作したレリーフ作品である。



**Form 1209**  
 檜 (ヒノキ) + キハダ + シマコクタン  
 H70 × W36 × D8

**Form 1208**  
 楓 (カエデ) + 胡桃 (クルミ) + キハダ + シマコクタン  
 H80 × W32 × D8

Form 1201 は、モチーフを人体の要素を取り入れた作品で、アイディアスケッチを基に桂 (カツラ) の一本で彫り出し、横たわった形で「ゆったり」を表現した。

**Form 1201**  
 桂 (カツラ) + 樺 (ケヤキ)  
 H42 × W46 × D34



ペン画 (pen and ink on the paper) と彩色画 (鉛筆、水彩)



この2枚のペン画は、立体作品に影響するエスキース・完成予想図の要素を含むドローイング (そのまま作品になりえる) である。



この3枚の絵は、水彩紙に鉛筆によるクローッキー (2011年に現在所属している中部二元会の研究会で描いた) に、水彩で彩色した平面表現である。

中部二元会研究展にて発表。

